

Real Application Clusters 12c ～研修受講後テスト～**■問題1【RACの構成要素】**

RACを構成するコンポーネントの説明として正しいものを1つ選びなさい。

- データベースはASM上には配置できない。
- Oracle Clusterwareによって、ディスク障害への耐性が向上する。
- インターコネクトはパブリックLAN経由で行われる。
- RAC環境では、インスタンスごとにREDOログ・ファイルとUNDO表領域が存在する。

■問題2【RACデータベースへの接続】

RACデータベースへの接続について正しいものを1つ選びなさい。

- SCANリスナーは、scanlistener.oraファイルに定義された情報をもとに起動する。
- SCANリスナーは、同時接続ユーザー数に応じて自動的に数が増減する。
- SCANリスナーは、各インスタンスに関する負荷情報を元にして接続先のノードを決定する。
- SCANリスナーは、DNSサーバーを使わなければ動作しない。

■問題3【キャッシュフュージョン】

キャッシュフュージョンについて正しいものを1つ選びなさい。

- キャッシュ・フュージョンはブロックの読取り操作でのみ動作する。
- パストイメージは転送先のバッファ・キャッシュに保持される。
- キャッシュ・フュージョンに必要なブロック情報は共有プールに格納されている。
- ブロック転送を実際に行うプロセスはサーバー・プロセスである。

■問題4【Oracle Clusterwareの特徴】

Oracle Clusterwareの特徴について正しいものを1つ選びなさい。

- Oracle Clusterware リソースにはユーザーやオブジェクト（表、索引など）も含まれる。
- CRS デーモンはリソース情報を投票ディスクに記録する。
- OHAS デーモンは障害が発生したリソースのフェイルオーバーを行う。
- GSS デーモンは既存ノードの生存確認を行う。

■問題5【CRS リソース管理ユーティリティ】

CRS リソースを管理するユーティリティについて正しいものを1つ選びなさい。

- CRSCCTL ユーティリティで CRS リソースの確認を行った際、TARGET と STATE が異なることがある。
- CRSCCTL ユーティリティを使用する場合、対象リソースが存在するホストに接続する必要がある。
- SRVCTL ユーティリティだけでなく、lsnrctl、SQL*Plus などのユーティリティを使用してリソースを管理すべきである。
- SRVCTL ユーティリティを使用する場合、対象リソースが存在するホストに接続する必要がある。

■問題6【物理ディスク障害に対するバックアップ・リカバリ】

RAC 環境でのバックアップ・リカバリについて正しいものを1つ選びなさい。

- RAC 環境の場合、メディア障害が発生しても、インスタンスは停止しない。
- OCR のバックアップは自動的に行われている。
- 1 つでも正常稼動している投票ディスクがあれば運用を継続できる。
- 片方の OCR が破損した場合、もう片方の OCR が正常であっても Oracle Clusterware は異常終了する。

■問題7【ログ・ファイル】

RAC 環境で出力されるログ・ファイルについて正しいものを1つ選びなさい。

- RAC 環境ではデータベースのアラート・ログ・ファイルはマスター・ノードに出力される。
- 診断ログ・ファイルには、Oracle Clusterware のパフォーマンス診断の結果が出力されている。
- 診断ログ・ファイルは、Oracle Clusterware コンポーネントごとに異なるディレクトリ出力される。
- 診断ログ・ファイルはディスク領域を圧迫しないように、一定期間を過ぎると自動的に削除される。

■問題8【インスタンス障害】

インスタンス障害時の動作について正しいものを1つ選びなさい。

- インスタンス障害が発生したノードは自動的に停止するため、手動で再起動を行う。
- インスタンス・リカバリではパスト・イメージが使用される。
- インスタンス・リカバリ中であっても、全てのブロックにすぐにアクセスできる。
- パスト・イメージに REDO は適用できない。

■問題9【ノード障害とインターコネクト障害】

ノード障害とインターコネクト障害について正しいものを1つ選びなさい。

- 投票ディスクを使用してポーリングする秒数を決定する。
- 投票ディスクに書き込みできていないノードがある場合、ノード障害と判断する。
- 投票ディスクは、他のノードと通信ができなくなると削除される。
- 投票ディスクに書き込みを行ったノードは再起動される。

■問題10【チューニング】

RAC 環境におけるチューニングについて正しいものを1つ選びなさい。

- シングル・インスタンス環境での問題点の多くは、RAC 環境にすることによって解消される傾向にある。
- RAC 環境ではインスタンス間でのブロックを送受信するため、ブロック競合が問題になりやすくなる。
- RAC 環境で最も効果の高いチューニングは、メモリーサイズの拡張である。
- パフォーマンス情報は Oracle Clusterware によって自動的に収集されている。